



ツバメ・イータイムの電動バイクをお買い上げいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

★車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

★本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

| | |
|---|--|
|  | 安全にかかわる注意情報を示してあります。 |
|  警告 | 取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。 |
| 注意 | 取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。 |

お車の引渡しについて

★お買い上げになられましたら、この取扱説明書を必ずお読みください。以下の内容は特に大切な内容になります。

- お車の正しい取り扱い方法
- 点検・整備について
- 保証内容と保証期間

運転免許について

★電動バイクを一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか確認してください。

★この電動バイクは、第一種原動機付自転車です。

★この電動バイクの乗車定員は、運転者のみの1人です。

取扱説明書について

★この取扱説明書には、電動バイクの取り扱い方法、安全な運転の方法、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

★車の取り扱い方法を十分にご存じの方も、電動バイク独自の装備や取扱いが有りますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

★電動バイクを譲られる場合は必ず、この取扱説明書をお渡しください。

★電動バイクの仕様、その他の変更により、この取扱説明書の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★取扱説明書は常時大切に保管してください。

尚、不明な点が有りましたら、株式会社ツバメ・イータイムまたはお買い上げになりましたツバメ・イータイム取扱店まで、お問合せくださいますようお願い申し上げます。

安全運転のために

心のゆとりと正しい服装が安全運転の決め手です。焦らずにゆとりを持って、道路交通法を守り落ち着いた運転を心がけましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもを締めてください。頭にしっかり合って圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は保護性の高い服で、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ない長そで・長ズボンを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作の邪魔になり、思わぬ事故の原因となる可能性があるため、避けてください。
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと万一の事故の際、死亡または重症にいたる可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

●日常点検、定期点検を必ず実施してください

事故や故障を防ぐため、法令で定められた一日一回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた6カ月、12カ月ごとに行う定

期点検は必ず実施してください。

●車の異常

次のような場合は、車が故障している恐れがあるので、そのままにせず、販売店に相談してください。

- 異音・異臭や異常な振動があるとき。

●荷物の積み方

固定する荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が少し変わりますので、注意が必要です。積み過ぎると、ハンドルがふられ運転を誤ることがありますので、積み過ぎに注意してください。

- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作が出来なくなる場合がありますので、物を置かないでください。
- ヘッドライトレンズの前を荷物等で遮らないようにしてください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。
- 石や鉄片など、硬くて重い物を入れたまま走行しないで下さい、最大積載重量以内でもトランク本体や車体が損傷する場合があります。
- 荷物は指定の場所以外には積まないようにしてください。カバー等が破損することがあります
荷物の積載は下記重量までです。

警告

最大積載重量

シート下トランク：7.0kg

※コンビニフックに掛けられるのは、1kgまでです。

リアキャリア：3.0K g（リアボックス含む）
※リアボックス（オプション）取り付け時

●両手はハンドル、両足はフットレストボード

運転するときは両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせてください。

⚠ 警告

車から降りて押して移動するときはメインスイッチをオフにしてください。
押して移動するとき、歩道のある場所では歩道を通行してください。（歩道ではキーを抜いてください）

●乗車定員は1名

運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

●法定速度は30km/h

原動機付自転車の法定最高速度は30km/hです。法定速度を守って走行しましょう。

●急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横滑りや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

●走行中の携帯電話の使用はしない

使用の際は安全な場所に停止してから携帯電話を使用してください。

●急激なスロットルの開閉操作はしない

●むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

⚠ 警告

違法改造はしないでください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。違法改造は法律に触れることは勿論、お客様の安全を脅かしたり、他人の迷惑となりますのでやめましょう。

※このような改造に起因する故障は、保証修理等受けられません。

タイヤなどの消耗品やアクセサリなどの部品は、販売店にご相談のうえ、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。また、保証の適用が受けられない場合があります。

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因になります。

安全運転のために

●自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。必ず加入してください。また、保険の期限切れにも注意してください。

●ナンバープレートを必ず装着

本車両は、第一種原付自転車です。公道を走行するには、ナンバープレートが必要です。

●周囲の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通る時は、安全な距離を保つが徐行してください。

●駐 車

- 盗難防止の為、車から離れるときには必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチキーを抜いてください。メインスイッチキーは必ずお持ちください。
- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のジャマにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- やむを得ず傾斜地や砂利等を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に駐車せざるを得ないときには、車の転倒・動き出しの無いように、安全処置に十分留意してください。

警告

インホイールモーターの回転中、および停止後しばらくの間は、インホイールモーターが熱くなっています。触れるとケドする恐れがありますので、注意してください。

●昼間のヘッドライトを下向きに

本車両は常時点灯仕様です。他の車両や歩行者に注意を促し、自分の存在を知らせるためです。電源を入れた状態では常にヘッドライトが点灯します。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きにしてください。

●環境への配慮

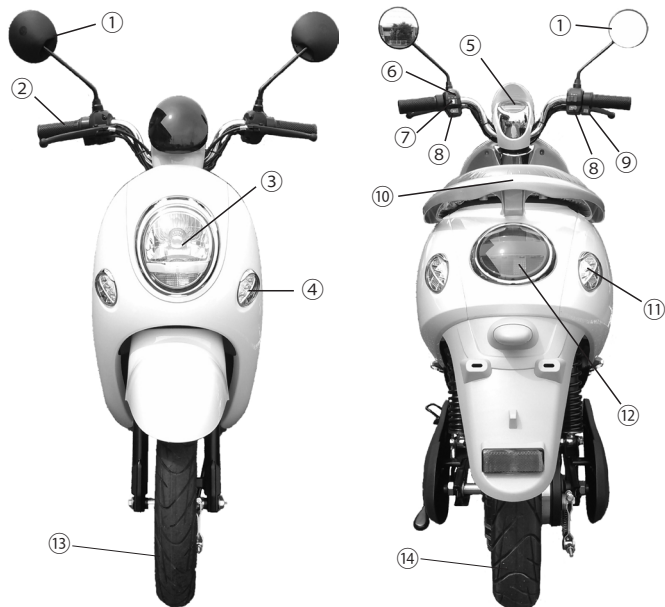
お車及び部品などの廃棄をする時

- 地球環境を守る為に、使用済みのバッテリーやタイヤ等はむやみに捨てないようにしてください。これらの物を廃棄する場合、ツバメ・イータイム取扱店にご相談ください。また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときには、お近くのツバメ・イータイム取扱店にご相談ください。

●各部の名称



取り扱い方法



- | | |
|-------------|--------------------|
| ①バックミラー | ②スロットルグリップ |
| ③ヘッドライト | ④フロントウインカーランプ |
| ⑤スピードメーター | ⑥前照灯Hi&Low切り替えスイッチ |
| ⑦ウインカースイッチ | ⑧ホーンスイッチ |
| ⑨速度切替スイッチ | ⑩リアキャリア |
| ⑪リアウインカーランプ | ⑫ストップ&テールライト |
| ⑬前輪 | ⑭後輪 |

●メーターパネル



- 1：速度計（スピードメーター）
走行中の速度を示します。第一種原動機付自転車の法定速度は30km/hです。速度を守り安全走行してください。
- 2：積算距離計（オドメーター）
走行した総距離をkmの単位で示します。
- 3：バッテリー電圧計
バッテリーの電圧を示します。
100%（満充電時電圧を示す）>>> 0%（低充電を示す）
バッテリーの電圧計はあくまでも目安です。
連続して上り坂を走行した場合など、目盛りが一時的に低下する場合があります。これは、登坂時の消費電力を元に表示しているからです。平地に戻った時、バッテリーの残量が充分ある場合は、電圧表示がもとに戻る場合もあります。

※メインスイッチ「ON」時、電圧表示が50%以下の場合、必ず充電してから乗車されることをお勧めします。

バッテリー残量が少なくなるまでバッテリー電圧計の目盛りは減りませんのでご注意ください。充電後の走行距離を目安にバッテリー残量を予測して充電してください。

4：方向指示器表示灯

方向指示器の操作により左折または右折を点滅で知らせます。

●キーの取扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- キーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは販売店にご相談ください。

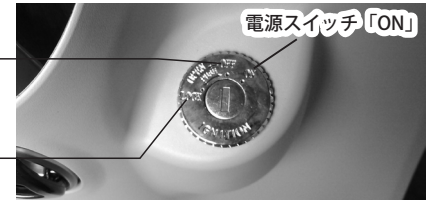
注 意

金属製のキーホルダーをつけると、車体を傷つける恐れがあります。

●メインスイッチ

電源スイッチ「OFF」

ハンドルロック



●電源スイッチ

メインスイッチキーを差込み「LOCK」-「OFF」-「ON」の方向へ回します。

- 「ON」：電源が入り走行出来ます。ヘッドランプが点灯します。
- 「OFF」：電源が切れます。
- 「LOCK」：ハンドルを左に切り、キーを「LOCK」の位置へ押しながら回すとハンドルロックされます。

●トランクの開け方

鍵穴がOFFの位置になっている時に、鍵を差し込み「OPEN」の位置へ左に回すと開きます。

⚠ 警告

- 走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統が作動停止し、事故につながる恐れがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

取り扱い方法

●ハンドルロック

ハンドルロックは駐車時などにおける盗難予防機能です。

▼ハンドルロックの仕方

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. 「LOCK」位置までキーを押しながら回します。
3. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
4. キーを抜きます。

⚠ 警告

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむを得ず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動きだしのないようにしてください。
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

▼解除の仕方

- キーをOFFまで回します。

*標準としてメインスイッチキーは2本付いていますので、1本はスペアキーとして保管してください。



●スロットルグリップ

- 静かに手前に回すとスタートします。
- グリップの回し加減で速度を調節します。グリップを戻すと、速度が遅くなります。

注意

急激なスロットルの開閉操作は故障の原因となります。スタンドをかけた状態で、スロットルを回さないでください。

●速度切替スイッチ

走行時の最高速度を切り換えることができます。低速と高速の2段階の切り替えが可能です。

走行中にスピードの切り替えをするときにはアクセルを一旦戻してから切り替えスイッチの操作を行ってください。アクセルを戻さないでスイッチを操作するとモーターが止まる場合がありますので絶対行わないでください。



●ウインカースイッチ

- 進行方向を変える時、右左折時などウインカーランプを点滅させます。運転者の進みたい方向を表示させます。
- 操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
- 真中のボタンを押すと解除されます。(プッシュキャンセル)

⇨：右側のウインカーが点滅します。

⇦：左側のウインカーが点滅します。

- ：押すとウインカーが消灯します。

⚠ 警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

●ホーンスイッチ

- 自分のまわりに、存在を知らせます。
- ホーンスイッチを押すと鳴ります。スイッチから手を放すと止まります。

●前照灯Hi-Loスイッチ

- ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。
- * 上向き (≡○)：遠くを照らします。
- 下向き (≡○)：近くを照らします。

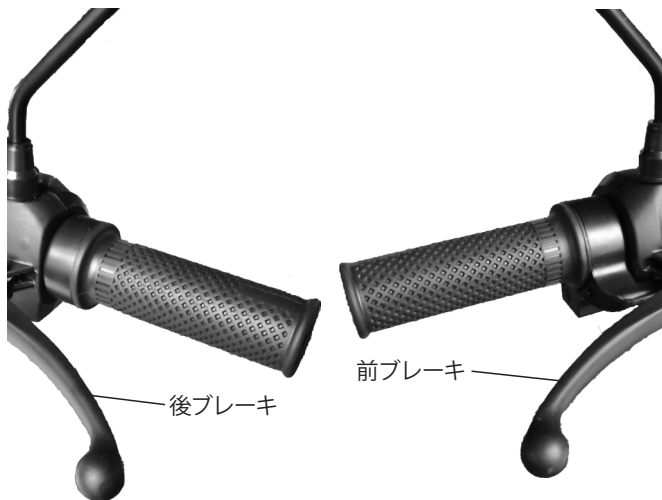
注 意

先行者や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き (≡○) にしてください。

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

取り扱い方法

●ブレーキ

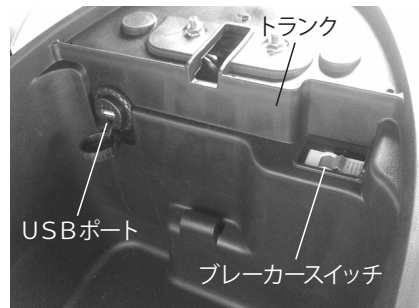


- スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握ると停止します。
- 制動力を効果的に得るためには、前後ブレーキを同時に使用すると効果的です。
- “はじめやんわり、あときつく”がブレーキの上手なかけかたです。
- 電流の過負荷防止の為に、ブレーキレバーを握ったままでは、スロットルグリップを回しても、電動モーターは回りませんので発進は出来ません。

●シート



- シートの下にトランクがあります。トランクへの最大積載量：約7Kgです。
- トランクはメインスイッチキーでシートのロックを解除して開けます。
- シートを閉めた後、



- 完全にロックが掛かったか確かめてください。ロックしないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
- トランクには充電器とヘルメットが収納できます。ヘルメットの形状によって収納できないこともあります。

- ブレーカー故障などで電流が過負荷の時、自動で電源を遮断します。この時には手動で元に戻してください。長い上り坂ではブレーカーが落ちる場合があります。ブレーカーが元の状態に戻らない時には、ツバメイータータイム取扱店までご連絡ください。
- *メインスイッチキーをトランク内に置き忘れた状態で座席を下げるとロックされ取り出すことが出来なくなりますのでご注意ください。

●リアボックス（オプション）

リアボックスに積める荷物は3kgまでです。

●USBポート

携帯電話等を充電することができます。

警告

- 異常を発見した場合は使用を中止して、すぐにツバメ・イータータイム販売店に相談してください。
- 雨天時などUSBポート内に液体が入る可能性がある状態で利用しないでください。また異物をUSBポート内部に入れないでください。感電の原因となり大変危険ですのでご注意ください。
- 走行中のUSBポートの利用は事故やケガの原因となり大変危険ですので絶対におやめください。
- USBポート利用中に煙が出たり異臭や異音がしたら、すぐにUSBポートからケーブルを抜いてください。そのまま使用を続けると、ショートして火災、感電の原因となったり、重大な事故、ケガ等につながる恐れがあります。
- 走行中の携帯電話のご利用は法律で禁止されていますので絶対におやめください。

取り扱い方法

注 意

- USBポート利用中に煙が出たり異臭や異音がしたら、すぐにUSBポートからケーブルを抜いてください。そのまま使用を続けると、ショートして火災の原因になったり充電されている機器の故障の原因となります。
- 故障の原因となりますので、USBポート接続部のチリやほこり等が入らないようにご注意ください。
- 雨天時などUSBポート内に液体が入る可能性がある状態で利用しないでください。また異物をUSBポート内部に入れないでください。故障の原因となりますのでご注意ください。



バッテリーの充電

●充電するときは

警告

- 転倒や事故などにより車両が変形している場合は、充電プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながる恐れがあります。充電する前に、必ずツバメ・イータイム販売店に相談してください。
- 雨などが当たらない場所で充電してください。感電やショートにつながる恐れがあります。
- 充電するときは、キーを抜いてください。
- 充電器は幼児やペットがいたずらするとおきに放置しないでください。予想外の行動により危害を受けたり火災になる恐れがあります。
- 電源プラグや充電プラグを濡れた手で扱わないでください。感電する恐れがあります。
- 充電器を接続したままの状態ですべてを動かさないでください。転倒してけがをしたり、機器を損傷する恐れがあります。
- 充電器は専用品です。接続プラグの計上が一致しても、他の電気製品などには絶対に使用しないでください。破損や火災の原因になります。
- 充電中の充電器に、長時間皮膚の同じ場所で触れないでください。充電器は充電中に発熱し、高温になる場合があります。充電中の充電器に長時間皮膚の同じ場所でふれると、低温やけどの恐れがあります。
- 充電器を水没させたり、雨の中に放置しないでください。

故障の原因になります。

- 充電するときは専用の充電器を使用してください。バッテリーなどが損傷する恐れがありますので、専用の充電器以外は絶対に使わないでください。
- 充電コードの取り扱いには充分注意してください。充電器が屋内にあり、車両が屋外にある場合、ドアやサッシで充電コードを挟み込むとコードを傷つける恐れがあります。また、コードを引っ張ってプラグを抜かないでください。コードを傷つける恐れがあります。
- 充電器を落としたり、強い衝撃を与えないでください。充電ができなくなったり、破損する恐れがあります。
- 充電器にカバーをしたり、上に物を置かないでください。また、複数の充電器を重ねたり密着させて使用しないでください。
- バッテリーの底部の接点や充電プラグ、充電コネクタにごみ、土、油、水などが付着しないよう注意してください。充電ができなくなったり、破損するおそれがあります。バッテリー底部の接点や充電プラグ、充電コネクタはいつもきれいにしておいてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器、その他の医療用電気機器を使用している方は、医師や医療用電気機器製造業者などに充電による影響の有無を確認してから充電を行ってください。充電が医療用電気機器の作動に影響をおよぼす恐れがあります。
- いつもと違う臭いがしたり、車体から煙が出ているときは、すぐに充電を中止してください。

- 周囲が囲まれた換気の悪い場所で充電しないでください。
- シートを開けたまま雨の中に放置しないでください。バッテリーを故障させる恐れがあります。また、感電やショートにつながる場合があります。故障した場合は、ツバメ・イータイム販売店に相談してください。
- ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。
- 充電は平坦な足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。
- 充電プラグ、電源コード、コンセントに損傷、腐食、サビなどがあるとき、または接続部にゆるみがあるときは充電を行わないでください。火災、感電、ショートの原因となります。
- 感電など充電中の事故を防ぐため、以下の内容を守ってください。
 - 雨や水に濡れるところでは充電しないでください。
 - 充電コードや充電プラグに変形や傷付きがあるときは、充電をしないでください。
 - 充電コードや充電プラグが濡れているときは、乾いた布で拭き取ってください。
 - 充電コードや充電プラグを改造しないでください。
 - ボディーカバーをかけた状態で充電しないでください。
 - 濡れた手で充電プラグの抜き差しをしないでください。
 - 落雷の恐れがある場所では、充電をしないでください。
- 充電コードや充電プラグを使用するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。充電コードや充電プラ

- グの損傷が火災、感電、ショートの原因となります。
- 充電コードや充電プラグの損傷を防ぐため、車体の転倒に気をつけてください。
 - 充電コードや充電プラグを車体などで踏まないでください。
 - 充電コードや充電プラグをシートで、はさまないでください。
 - 充電コードを引っ張ったり、結んだり、強い力を加えたりしないでください。
 - 充電コードをねじらないでください。
 - 充電コードや充電プラグの上に物を載せないでください。
 - 充電コードや充電プラグは、硬いものや重いもので踏まないでください。
 - 充電コードを束ねたり、小さく丸めたりしないでください。
 - 充電コードや充電プラグを傷つけたり、加工するなどしないでください。
 - 充電コードを無理に曲げないでください。
 - 充電コードや充電プラグを釘などの鋭利なもので固定しないでください。
 - 充電コードや充電プラグをストーブなどの暖房器具に近づけないでください。
 - 充電コードや充電プラグを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
 - 充電コードや充電プラグが損傷(断線や芯線の露出など)

バッテリーの充電

している状態で使用しないでください。

注 意

- 自動車のAC電源、発電機などを充電に使用しないでください。故障の原因となります。ご使用にならないときは、安全のためコンセントから電源プラグを抜いてください。

●バッテリーの取り扱いの注意

- バッテリーの保管、及び使用は周囲温度が -10°C 以下、又は 40°C 以上では行わないでください。
- バッテリーは、密閉式のメンテナンスフリーバッテリーを使用していますので液の補充等は必要ありません。むやみに上蓋を開けないようにしてください。
- バッテリーは、メインスイッチが「OFF」の状態でも、多少の自己放電をしていますので、使用しない場合でも1ヶ月に1～2回充電し常にフル充電にして置いてください。

外気温が低い場合、走行距離が短くなったり（20%程度減少）、速度が出ない場合があります。また、坂道を多く走行したり、重いものを載せたり、体重の重い方が乗られたりした場合も、走行距離が短くなります。

バッテリーの電圧が極端に低くなるまで放電してしまうと、充電ができなくなり、バッテリーが使用できなくなります。

注意

バッテリーの交換、修理、メンテナンス等が必要な場合は、ツバメ・イータイム取扱店に相談してください。

●充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いと充電器やバッテリーの故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

- 平坦で安定がよいところ。
- 雨や水にぬれないところ。
- 直射日光の当たらないところ。
- 風通しがよく、湿気の無いところ。
- 幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- 充電中の周囲の温度が -10°C ～ 40°C の範囲内の場所

●充電のしかた

警告

充電コードを接続したままの状態ですべてを動かさないでください。転倒してケガをするおそれがあります。

注意

電源コードを接続したままの状態ですべてを動かさないでください。転倒して、車体や充電コードなどを損傷するおそれがあります。

バッテリーは車体に取り付けたままの状態でのみ充電ができます。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. 充電器の充電プラグを、シート下についている差込み口に挿入します。

バッテリーの充電

かり奥まで差しこみます。

- もう片方のプラグを家庭用のAC100Vコンセントに差し込んでください。

注意

充電器は必ず、車体の差込口に先に差し込んだ後に、AC100Vコンセントに差し込んでください。手順を逆にした場合、故障につながる恐れがあります。

- 充電器の電源プラグをコンセントから抜きます。
- 充電器の充電プラグを差し込み口から抜きます。
- 充電器コードは充電器本体に巻き、保管します。

警告

- 充電プラグを抜くときは、充電プラグを持って行ってください。充電コードを持って行くと、感電、ショート、発火の原因となります。
- 充電コードや充電プラグの改造、分解はしないでください。火災、感電、ショートの原因となります。
- 充電コードの芯線が見えるような傷があるものを使用すると、接触による感電や半断線による発熱のおそれがあります。芯線が見えるような傷を見つけたときは、すぐに使用を中止し、ツバメ・イータイム販売店に相談してください。
- 車両の転倒などにより充電コードや充電プラグに強い衝撃を与えたと思われる場合は、すぐに使用を中止し、ツバメ・イータイム販売店に相談してください。

- 充電コードや充電プラグは安全にお使いいただくために定期的に点検し、変形、傷付きなどの損傷があるときは、ツバメ・イータイム販売店に相談して純正部品と交換してください。
- 充電プラグの刃部（金属接点部）が折損したり、グラグラしているようなものを使用すると、接触による感電や半断線による発熱のおそれがあります。プラグの刃部が折損したり、グラグラしているようなときは、すぐに使用を中止し、ツバメ・イータイム販売店で点検を受けてください。
- 車体が大きく破損、変形しているときは感電のおそれがあります。バッテリーや電気配線に触れないでください。また、充電プラグをコンセントに差さないでください。
- 充電プラグは、根元までしっかり差し込んでください。感電や火災の原因となります。
- 充電プラグを濡れた手で取り扱わないでください。感電する恐れがあります。

注意

- 使用後は安全のため、コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
- 充電終了後は、屋外へ放置しないでください。
- 充電コードは長さにも余裕を持たせてコンセントに接続してください。車両が転倒して、車体、充電コード、充電プラグ、家庭用コンセントなどを損傷するおそれがあります。
- 充電が終わった後は、速やかに充電プラグをコンセントから抜いてください。充電プラグをコンセントに差し込んだ

ままにしておくと、水没やいたずらにより漏電、感電の原因となります。また、ほこりや異物の蓄積が火災、感電、ショートの原因となります。

- 充電時間は、バッテリーの状況、また気温等の環境により異なりますが、約8時間です。
- 充電器の電源が入るとPOWERランプとCHARGEランプが「赤」に点灯します。(充電中はPOWERランプは常に赤点灯します)
- 充電が始まるとCHARGEランプが「オレンジ」に点灯し、充電器のファンが回ります。
- 充電が終わるとCHARGEランプが「緑」に点灯します。
- 電源プラグを抜く時は、コードをもたず電源プラグの先端をもって抜いてください。又プラグの抜く順序はAC100Vの方を抜いてから本体側プラグを抜いてください。
- バッテリーはバイクの電源が「OFF」の状態でも、多少の自己放電していますので、1ヶ月に1～2回充電し常に満充電にしてください。
- ブレーカースイッチが「OFF」の状態では充電されませんので、ブレーカースイッチ「ON」になっていることを確認の上、充電してください。
- 充電器をシートの中に入れたままの走行はお止めください。故障の原因となります。

注意

ブレーカースイッチを「OFF」の状態では充電すると、充電器から異音がしたり不具合・故障の原因となります。

● 充電器



※充電器を差し込んでからランプが点灯するまで少し時間がかかる場合がございます。故障ではありませんので点灯するまでお待ちください。

正しい運転の仕方

●発進の準備

1. 左手で後輪ブレーキレバーを握り、右手でリアキャリアを持ちます。
2. 車を前に押してメインスタンドを戻します。

⚠ 警告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、必ず左手で「左側のハンドルグリップ」を持ち、右手で「リアキャリア」を持ってください。右側のスロットルグリップを握って押し出さないでください。転倒や誤発進のおそれがあり危険です。

3. 車に乗ります。
4. 車が動き出さないように左手で後輪ブレーキレバーをしっかり握ります。
5. バックミラーで後方を確認できるように調整します。



6. 周囲の安全を確認します。
7. メインスイッチをONにします。
8. バッテリー電圧計と充電後の走行距離を目安に残量予測し、不足時は充電後使用してください。



●走り方

1. ウィンカースイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
2. 前後、左右の安全を確認します。
3. 後輪ブレーキレバーを放します。
ブレーキレバーを少しでも引くと発進しない（送電しない）ので、発進時には完全にブレーキを使っていない状態で発進してください。
4. スロットルグリップをゆっくり手前に回して発進します。

⚠ 警告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

シートが長くなっておりますが、決して二人乗りはしないでください。

発進後はウインカーを速やかに消灯してください。

飛び出し防止のため、必ずリヤブレーキを作動させてください。

●スピードの調整

スピードの調整はスロットルグリップを回しておこないます。

戻す：スピードが遅くなります。

手前に回す：スピードが速くなります。

●ブレーキの使い方

- ブレーキレバーを少しでも引いた状態だと送電しない（加速しない、始動しない）のでご注意ください。
- スロットルグリップを戻し、前輪ブレーキレバーと後輪ブレーキレバーを同時に握り、ブレーキをかけます。
- ブレーキは徐々に、絞り込むようにかけるのが上手なかけかたです。余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 不要な急ブレーキはかけないでください。急ブレーキをかけると横滑りや転倒の原因となるときがあります。また、タイヤをロックさせ車体の安全性を損なう恐れがあります。

⚠ 警告

- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。

注 意

- カーブ走行の時は、スピードの出し過ぎに十分注意してください。
- 雨の日や路面が濡れているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキを掛けるなど余裕を持って操作してください。
- 下り坂では、スロットルグリップを戻して、速度に応じてブレーキを掛けながらゆっくり走ってください。
- 連続的なブレーキ操作を避けてください。ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなる恐れがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる事があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合

正しい運転の仕方

を確認してください。もし効き具合が悪い時はブレーキを軽く作動させながら、しばらく低速で走行しブレーキを乾かしてください。



前車輪です。雨の日は特にゆっくりとブレーキを掛けてください。

- 雪道や凍った道路は滑りやすいので十分に気を付けて走行しましょう。

●止まり方

1. 止まる地点が近づいたら早めに方向指示器スイッチで合図し、後方や側方の安全を確認し、徐々に左によります。

ポイント

スロットルグリップを戻して、早めに左右のブレーキレバーを引きブレーキを掛けましょう。制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。



2. スロットルグリップを戻します。
3. 徐々に前輪、後輪のブレーキをかけます。不要な急ブレーキはかけないでください。
4. 車が止まったら左足を地面につけて、車を支えます。
5. ウィンカーのスイッチを操作して、ウィンカーを消します。
6. メインスイッチをOFFにします。
7. 車の左側に降ります。
8. 左手でハンドルを、右手でリアキャリアを持ちます。
9. 車を垂直にし、右足でメインスタンドを降ろします。このとき、メインスタンドの足が左右とも地面についていることを確認します。
10. 右足でメインスタンドを強く踏み込みながら、右手でリアキャリアを引き上げます。左手でハンドルを真っ直ぐにし、右手でリアキャリアをしっかりと持ち、右足でスタンドの踏み付け部分を地面方向に強く踏むと比較的にセンタースタンドを立てる事が出来ます。



注意

上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、モーターなどが発熱して温度保護装置が作動し、走行できなくなることがあります。

- 駐車する場合は周囲に迷惑のかからない場所に移動し、駐車させてください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむを得ず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは転倒や動きだしの無いようにしてください。

11. 盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックを掛け、メインスイッチキーを抜きます。



日常点検

電動バイクは常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検は、電動バイクを使用する人が1日1回運転する前に実施する点検です。安全快適にお乗りいただくために必ず実施してください。

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められた時は、使用者ご自身で整備するか、難しいと思われる内容は最寄りのツバメ・イータイム販売店にご相談ください。

▼ポイント

確実な点検・整備をおこなうための工具を必要に応じてお買い求めください。詳しい点検の方法は、次ページ以降の日常点検の方法を参照してください。

| 点検箇所 | 点検内容 |
|--------------|--|
| ハンドル | 緩み・ガタはありませんか？ |
| | 左右スムーズに動きますか？ |
| スロットルグリップ | 正常に作動しますか？ |
| モーター | モーターの回転音に異常はありませんか？ |
| ホーン | ホーンは鳴りますか？ |
| フロントウインカーランプ | ランプは点灯しますか？警告音は鳴りますか？ |
| リアウインカーランプ | ランプは点滅しますか？ |
| ブレーキレバー | ブレーキは効きますか？ |
| | レバーの遊びは適切ですか？ |
| バックミラー | 汚れ・損傷はありませんか？ |
| バッテリー電圧計 | ランプが点灯しますか？ |
| | バッテリーの残量は充分ですか？ |
| ヘッドランプ | ランプは点灯しますか？ |
| | 汚れ・損傷はありませんか？ |
| ナンバー用ランプ | ランプは点灯しますか？ |
| シート | 座席は正常ですか？ |
| | 緩み、ガタつきありませんか？ |
| タイヤ | 亀裂・損傷はありませんか？ |
| | タイヤの溝の深さは適切ですか？ |
| | 金属片・石等の異物がささっていませんか？ |
| | 空気圧が適正ですか？（2.0~2.2Kg/cm ² ） |

警告

安全のため、ご自身で実施する場合は、ご自身の知識、技量に合わせた範囲で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は、最寄りのツバメ・イータイム販売店等までご相談ください。点検・整備を行うときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が十分に冷えてから行ってください。充電コードおよび充電プラグが損傷、変形している場合は、必ず新品に交換してください。感電やショートによる火災のおそれがあります。

注意

車両点検時に充電コードや充電プラグに防錆剤、有機溶剤や油脂類などが付着しないようにしてください。

●日常点検の方法

▼ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

- ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバーの先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは6mm～8mm



- アジャスターの凹部は、半回転ごとにピンの凸部に一致します。調節後は一致していることを確認してください。

警告

必ず左右（前輪・後輪）とも行ってください。

- ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。ブレーキのきき具合が悪い時は、ツバメ・イータイム販売店等に相談してください。

日常点検

⚠ 警告

走行しながら点検するときは、交通状況に注意し、低速度で行ってください。

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがいないかを確認してください。

▼タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常な時は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧 (2.0~2.2Kgf/cm²) にしてください。

▼タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

▼タイヤの溝の深さ、タイヤの異常な摩耗

タイヤの溝の深さをデブスゲージ等で測ります。規定値 (5mm) 以下の場合には交換してください。測定はツバメ・イータイム販売店等に相談してください。



●タイヤの空気圧 2.0 ~ 2.2Kgf/cm²

⚠ 警告

- 異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適切な空気圧による走行は、転倒事故などを起こす原因となります。取扱説明書に記載された空気圧を守ってください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響を及ぼしたり、パンクの原因になります。異常があるときはツバメ・イータイム販売店に相談してください。

▼モーターの作動、異音の点検

電源を「ON」の状態にしたとき、モーターから異音がしないかを点検します。

▼低速、加速の状態の点検

スロットルグリップを徐々に回して加速した時、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行するなどして点検します。異常を感じたら、最寄りのツバメ・イータイム販売店等にご相談ください。

⚠ 警告

スロットルグリップの作動に異常があるときは、早めにツバメ・イータイム販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

▼バッテリー充電量の点検

電源をオンにした時、バッテリー充電量が走行可能な範囲内であるか確認してください。

▼バッテリーの点検

キーを「ON」の位置に回したとき、スピードメーター、電圧計が表示されるかを確認してください。

▼灯火装置の点検

メインスイッチをオンにします。

- ヘッドライト・テールランプ・ナンバープレートランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き/下向きに切り替わるかを点検します。
- 前輪ブレーキレバー、後輪ブレーキレバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。
- ウィンカースイッチを操作し、前後左右のウィンカーランプが正常に点滅するかを点検します。

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると正常に作動しません。

▼通行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

定期点検

⚠ 警告

●定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務付けられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6カ月点検と12カ月点検の2種類があります。

- 定期点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められた時は、ツバメ・イータイム販売店に必ず相談してください。

▼定期点検整備の方法

定期点検項目は次のページの表を参考に行ってください。ご自身で出来ない整備につきましてはツバメ・イータイム販売店等までご相談ください。

⚠ 警告

安全のため、ご自身で実施する場合は、ご自身の知識、技量にあわせた範囲で点検・整備を行い、点検するときは下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 停止直後の点検はモーターが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意して

ください。

- 異常が認められた時は、ツバメ・イータイム販売店に必ず相談してください。

▼バッテリーの点検

バッテリーボックスに破損や損傷がないかを点検します。バッテリーに異常があるときは、ツバメ・イータイム販売店に相談してください。

⚠ 警告

- バッテリーを分解しないでください。
- バッテリーを加工、改造しないでください。
- 異なった種類のバッテリーと接続しないでください。
- 指定以外の充電器で充電しないでください。
- バッテリーを他の用途に使用しないでください。
- バッテリーの交換は、ツバメ・イータイム販売店に相談してください。

▼ブレーキシュー摩耗点検

ブレーキシューの摩耗点検の際は、ツバメ・イータイム販売店に相談して点検・交換してください。

メンテナンスノート NO-1

安全の為、購入後6ヶ月12ヶ月毎にツバメ・イータム取扱店で点検（有料）を受けてください。

○K：異常なし A：調節 △：修理 X：交換 T：締付 C：清掃

| 定期点検 | | 6ヶ月 | 12ヶ月 | |
|-----------|---------------------|-----|------|--|
| 操作ボックス | スロットルグリップの作動、戻り具合 | | | |
| | スイッチの作動具合 | | | |
| | コネクタ-接続部の緩み、損傷 | | | |
| メインコントローラ | コネクタ-接続部の緩み、損傷 | | | |
| バッテリー | ターミナルの締め付け・腐蝕 | | | |
| | コネクタ-接続部のガタ・損傷 | | | |
| | 充電機能 | | | |
| 充電器 | コネクタ-接続部のガタ・損傷 | | | |
| | ランプの点灯 | | | |
| | コードの損傷 | | | |
| | ファンの回転・異音 | | | |
| ブレーキ | 手動ブレーキレバーとスットパーのすき間 | | | |
| | 手動ブレーキレバーの遊び | | | |
| | ブレーキランプの点灯 | | | |
| | 手動ブレーキのきき具合 | | | |
| | ブレーキケーブルの緩み・損傷 | | | |

定期点検

| | | | | |
|--------------|-------------------------------|--|--|--|
| | ブレーキシュー摺動部・ライニングの摩耗 | | | |
| | ブレーキドラムの摩耗・損傷 | | | |
| ハンドル | ハンドルの操作具合・緩みガタ | | | |
| | 左右の操舵角度 | | | |
| | ステアリングシャフトの取り付け具合損傷 | | | |
| | ステアリングシャフトの軸受部のガタ、ストッパーの損傷、サビ | | | |
| シート | シートの汚れ及び損傷 | | | |
| | 取り付け部の損傷 | | | |
| | ストッパーの変形・摩耗 | | | |
| タイヤ | タイヤの亀裂・損傷 | | | |
| | タイヤの溝深さ・異常摩耗 | | | |
| | 空気バルブの損傷 | | | |
| | 空気圧の適正 | | | |
| ホイール・サスペンション | ボルト・ナット類の緩み | | | |
| | ホイールの損傷 | | | |
| | サスユニットの損傷 | | | |
| | サスペンションの作動具合 | | | |

点検をして車に異常がみとめられたときには、調整、清掃、交換などの整備が必要となります。ここでは、通常行われることが多い簡単な整備方法を説明しています。

警告

安全のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は最寄りのツバメ・イータイム販売店等にご相談ください。点検・整備するときは安全に十分に注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 停止直後の点検は、モーターが熱くなっているため、ヤケドに注意してください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

▼ポイント

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。

●ブレーキの遊びの調整

前輪と後輪ブレーキレバー先端部の遊びが6～8mmになるようにアジャスターで調整します。

お車の手入れ

車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。隅々まで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

●洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- やわらかいタオルを水で濡らし固く絞った後、丁寧に拭いてください。
- 汚れを落とした後、車両の塗装面を保護するため、ワックスがけをしてください。

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- スロットル、電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。
- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水

で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高压洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。
- 拭き方によってはキズの原因になりますのでご注意ください。
- コンパウンドの入ったワックスは車両を傷つけますので、使用しないでください。
- ワックスを使用するときは、ボディの目立たないところで試してからご使用ください。

警告

- バッテリーを充電しながら洗車しないでください。火災、感電の原因となります。
- 洗車をする前に、必ずシートが閉まっているか確認してください。シートが開いていると、バッテリーに水がかかり、感電やショートの原因となります。
- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- 充電コード、充電プラグは水で洗わないでください。汚れたときは、乾いた布でふき取ってください。

- 電気系統などに水がかかったり、入らないように注意してください。故障の原因になります。
- 電装部品に水をかけないように注意してください。故障の原因となります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで車両に直接水圧をかける洗車は絶対にしないでください。
- シート下のトランク内部やヒューズホルダー内部に水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキがきかなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。

●保管の仕方

▼保管場所

保管場所は慎重に選びましょう。

- 平坦で安定の良いところ。
- 風通しがよく、湿気の無いところ。
- 雨つゆや直接日光が当たらないところ。
- 車は出来るだけ敷地内に保管してください。

▼保管方法

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

▼長期保管するときは

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果

があります。

- バッテリーは電源スイッチが「OFF」の状態でも、自己放電しています、一ヶ月に1~2回充電して満充電の状態にしてください。

▼長期間保管して再使用するときは

- 長期間（一カ月以上）保管して再び使用する場合は、必ず満充電にしてから使用してください。
- 走行前に、各部の点検をしてください。

トラブルシューティング

| 症 状 | 考えられる原因 | 解決の仕方 |
|---|---------------------------------------|---|
| 充電器でまったく充電できない。 | 充電器の接続コード、もしくはプラグが外れている。 | 取扱説明書に従って確実に接続してください。 |
| | 充電器のヒューズが切れている。 | 取扱説明書に従ってヒューズを交換してください。 |
| | 充電器が故障している。 | 充電器の修理が必要です。 |
| | 車両の電気系統に異常がある。 | 電気コード、コネクタ、回路などの修理が必要です。 |
| 指定の充電器で12時間以上充電しているのに、充電完了を示すランプが点灯しない。 | 電圧が極端に低い。 | 新車の初回充電時や、長期間、使用がなかったあとでは充電に時間がかかる場合があります。一度、満充電にしてください。 |
| | バッテリーの性能が低下している。 | バッテリーを交換する必要があります。バッテリー寿命は、走行状況により異なります。 |
| | 充電方法が間違っている。 | 取扱説明書に従って充電してください。 |
| | 充電器が故障している。 | 充電器の修理が必要です。 |
| メインスイッチをONにしても、車両が動かない。 | ブレーカースイッチがOFFになっている。 | トランク内のブレーカースイッチをONにしてください。 |
| | メインヒューズが切れている。 | メインヒューズの交換が必要です。 |
| | 車両の電気系統系に異常がある。 | 電気コード、コネクタ、回路など修理が必要です。 |
| メインスイッチをONにした時、ランプとホーンは作動するが、モーターが回らない。 | ブレーキレバーが戻っていない。 | ブレーキレバーが戻っていない状態では、モーターへの電力供給が遮断される仕組みになっています。ブレーキレバーを完全に戻してください。 |
| | 車両の動力系統、電気系統が故障している。(モーター、スロットル、回路など) | 修理が必要です。 |

トラブルシューティング

| | | |
|--|---------------------------------------|---|
| メインスイッチを ON にした時、モーターは回りますが、ランプとホーンが作動しない。 | 電圧変換機のヒューズが切れている。 | 電圧変換機のヒューズを交換してください。 |
| | 電圧変換機が故障している。 | 修理が必要です。 |
| スピードが出ない。 | 指定以外の充電器で充電をおこなった。 | 当社指定の充電器で充電を行ってください。正常な性能が得られないだけでなく、故障の原因となります。 |
| | バッテリーの充電残量が少なくなり、スピードが低下した。 | 充電器側の充電完了を示すランプが点灯するまで、しっかりと充電を行ってください。 |
| | 走行時の負荷が大きい。 | 速度は走行状況により異なります。(積載重量が多い、逆風、上り坂であるなど) |
| | バッテリーの寿命である。 | バッテリーを交換する必要があります。バッテリー寿命は走行状況により異なります。 |
| 走行できる距離が短い。 | 指定以外の充電器で充電をおこなった。 | 当社指定の充電器で充電を行ってください。正常な性能が得られないだけでなく、故障の原因となります。 |
| | 充電が十分でない。 | 充電器側の充電完了を示すランプが点灯するまでしっかりと充電を行ってください。 |
| | 充電器の故障やヒューズの切れなど、充電器側の異常により、充電が十分でない。 | 充電器の取扱説明書にしたがって、充電器を正常な状態にしてください。 |
| | 外気の温度が低い。 | バッテリーに最適な気温は、-10℃～40℃の範囲です。寒冷時では、走行距離が短くなることがありますが、これはバッテリーの特性によるものであり、異常ではありません。 |
| | 走行状況の負荷が大きい。 | 走行距離は、走行状況により異なります。(積載重量が多い、逆風、上り坂であるなど) |
| | タイヤの空気圧が低下している。 | タイヤの空気圧が足りないと、走行距離が短くなります。規定の空気圧になるよう調整してください。 |

トラブルシューティング

| | | |
|--|---|---|
| | バッテリーの寿命である。 | バッテリーを交換する必要があります。バッテリー寿命は、走行状況により、異なります。 |
| | バッテリーが故障している。 | バッテリーを交換する必要があります。 |
| スロットルでスピード調節がうまくいかない。(スピードにムラがある、途中でブレーキがかかったような状態になるなど) | バッテリー充電量が少なくなり、バッテリー電圧が足りない。 | バッテリー電圧が一定値以下になると、バッテリーを保護するためにモーターへの電力供給量が遮断される設計になっています。バッテリーの充電残量が少ない状態で急加速のスロットル操作をすると、バッテリー電圧が一時的に一定値以下となり、スピードにムラがでたり、途中でブレーキがかかったような状態に感じることがあります。バッテリーの充電残量が少ない場合は、すみやかに充電を行ってください。 |
| | スロットルに異常がある。(スロットルのバネが戻らない。スロットルが緩すぎたり、硬すぎたりする、もしくは、コネクタが外れている) | 交換修理、もしくはコネクタの確認が必要です。 |
| ブレーキのききが悪い。 | 深い水たまりなどを走行し、ブレーキドラム内に水が入った。 | ブレーキの湿りを乾かしてください。 |
| | ブレーキアジャスターによる調整が行われていない。 | ブレーキの効き具合をブレーキアジャスターで調整してください。 |
| | ブレーキシューの寿命である。 | ブレーキシューを交換してください。 |
| 走行中に停止した。 | バッテリーメーターがバッテリーが少ないことを示している。 | 充電してください。 |
| | 走行中の電圧に異常が発生し、ブレーカースイッチが OFF になった。 | トランク内のブレーカースイッチを ON にしてください。 |
| | 車両の電圧に異常が発生し、メインヒューズが切れた。 | メインヒューズを交換してください。 |

| yuppe2 (ユッペ2) スペック | |
|--------------------|----------------------|
| 名 称 | yuppe2 |
| 全 長 | 1670mm |
| 全 幅 | 700mm |
| 全 高 | 1040mm |
| 乗車定員 | 1人 |
| モーター | ブラシレスモーター (ボッシュ製) |
| 1充電走行距離 | 約45km (30km定地走行テスト時) |
| 最高速度 | 45km/h |
| 定格出力 | 600W |
| 登坂能力 | 12度 |
| 制動方式 | 前輪：ドラム 後輪：ドラム |
| タイヤサイズ | 3.00/10 |
| 駆動方式 | インホイールモーター |
| バッテリー | 鉛バッテリー (60V20A) |
| 充電用電源 | 家庭用電源 (AC100V) |
| 充電時間 | 約8時間 (フル充電) |

この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや写真及び内容などが一部実車と異なる場合があります。

保証書

1. 保証の内容

お買い上げいただきましたお車を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が起きた場合は、この保証書に示す、期間と条件に従って、これを無償修理いたします。(以下この無償修理を保証修理といいます。)

保証修理は部品の交換あるいは補修により行います。なお取り外した部品等は弊社の所有となります。

2. 保証期間

○保証期間 お買い上げ日より1年以内。
かつ、走行距離が5,000km以内の場合。

○保証対象部品 お車を構成する全部品。ただし下記を除く。
・消耗部品および油脂液類
・別扱い保証の部品
バッテリーは、お買い上げ日より6ヶ月以内。

下記の消耗品の交換は、実費を頂きます。

ブレーキシュー・ランプ・バルブ類・ヒューズモーター類のブラシ・パッキン類・ゴム類などこれに類するもの。

3. 別扱い保証

次に示す部品は、この保証書とは別にそれぞれの部品メーカーが定めた保証基準に従って保証されます。お買い上げいただいたツバメ・イータイム取扱店にご相談ください。

①タイヤ・チューブ ②アクセサリ用品等

4. 保証できない事項

(1) 次に示す事項は保証修理致しません。

- ①保守、整備の不備又は間違いに起因する不具合
- ②取扱説明書に示す取扱い方法と異なる使用及び弊社が示す使用の限度(最大積載量・乗車定員・その他)を超える使用に起因する不具合
- ③法令に違反する改造及び弊社が認めていない改造(車高の変更、灯火器の減設、増設、バッテリー容量の変更など)に起因する不具合
- ④レース・ラリー等による酷使あるいは一般に車が走行しない場所での走行に起因する不具合
- ⑤純正部品及び弊社指定のもの以外の使用に起因する不具合
- ⑥時の経過で発生する不具合(塗装面などの自然退色・メッキ面などの自然退色・さび・消耗品の劣化など)
- ⑦機能上影響の無い感覚的な現象(音・振動・オイルのにじみなど)
- ⑧地震・台風・水害などの天災、事故及び火災に起因する不具合
- ⑨煤煙・薬品・鳥糞・塩害などに起因する不具合
- ⑩後記5の『お客様にお守りいただく事項』を守らなかったことに起因する不具合

2 次に示す費用は負担いたしません

- ①法令に定められた継続検査に伴う点検整備の費用
- ②点検・清掃及び法令で定められた定期点検整備の費用
- ③ツバメ・イータイム取扱店以外での修理費用

- ④使用により消耗した部品
- ⑤お車を使用できなかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・商業損失など）
- ⑥この保証書に示す以外の費用・補償など

5. お客様にお守りいただく事項

お車を安全快適にご使用いただくためには、お客様の正しい使用と点検、整備が必要です。次のことを必ず守ってください。守られていない場合には、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知ください。

- ①取扱説明書に示す取扱い方法に従って使用すること
- ②日常点検を実施すること
- ③法令及び弊社の指定する点検整備を実施すること
- ④定期交換部品等を指定どおりに交換すること

6. 保証の発効

この保証書は、お買い上げのツバメ・イータイム取扱店が、保証登録票に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

7. 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書および保証登録票を、お買い上げのツバメ・イータイム取扱店へお持ちいただき、保証修理をお申し付けください。これにより保証修理を致します。

保証修理をお受けになるときは必ず保証書をご提示ください。提示がない場合は保証修理を致しかねます。

なお、保証修理をお申し付けになる前に、保証書の内容（特に保証できない事項）を良くお読みください。

※保証期間中に発生した修理等で掛かる工賃等についてツバメイータイム取扱店で行う場合は無償となりますが、他店で行った場合の工賃等は保証出来ませんのでご了承ください。なお、保証期間中の保証修理の場合でも、車両の送料、または出張費用等、お客様のご負担となる場合があります。

8. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用される車両にのみ適用いたします。従って海外へ持ち出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなります。

※この保証書は、本書に明示した期間と条件のもとに無償修理をお約束するものです。従って保証期間経過後に発生した不具合については、この保証書に基づく保証修理の適用はありません。

株式会社ツバメ・イータイム



保証登録票

| | | | |
|--|-----|---|---|
| 製品名 | | | |
| 車台番号 | | | |
| 登録番号 | | | |
| 保証期間 お買い上げ日より1年以内 かつ、走行距離が5000km以内の場合。 | | | |
| お客様名 | 住所 | | |
| | お名前 | | |
| 取扱店名 | 〒 | | 印 |
| お買上日又は登録日 | 年 | 月 | 日 |

この保証登録票は、保証の発効のために必要ですので、必ずお買い上げ日または登録日、車台番号、取扱店名、扱い者印などが記入、捺印されていることをご確認ください。

左記期間中保証修理の必要が生じた場合は、本票をご提示のうえ、ツバメ・イータイム取扱店に修理をご依頼下さい。保証書は再発行いたしません。